（令和6年度）

自己評価書

園番号	園名
808	伏見保育園

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価		評価の観点･理由	課題及び改善方策
Ⅰ保育活動に関するもの	（１）保育 目標/計画	①　保育目標の設定 ②　保育計画の作成 ③　全体的な計画の編成 ④　保育活動の評価	・子どもの実態を把握した上で教育目標を設定し、年間計画を立て、全職員で共通理解し、具体的な取り組みにつながる目標設定をする。 ・保育所保育指針、奈良市こども園カリキュラムに基づいて計画し適正に実施する。 ・保護者アンケートと自己評価をおこない、検証する。	・園の教育方針や教育ビジョンを全職員で共通理解し、園の目標の達成に向けて適宜反省評価をしながら、次回につなげていった。 ・伏見保育園らしい保育・教育の推進に向けて、保護者の協力を得ながら、充実した保育・教育活動になるよう工夫した。 ・保護者アンケートの実施により、成果と課題を明らかにすることができた。	A A A B	A	・園の保育・教育目標について話し合い実践しその中で、環境や援助の見直しをしたり適宜評価反省したりしながら取り組むことができた。 ・保護者アンケート結果をもとに、具体例をあげながら検証していき、改善できるところは改善した。	・保育・教育目標等の内容について年度初めに確認し合い職員みんなで共通理解を図り、取り組みを進めていく。 ・評価の指標となる具体的な目標について職員間で研修していく。
	（２）保育 内容/指導	①　指導計画の立案 ②　保育内容の精選 ③　指導方法の工夫改善 ④　評価	・保育所保育指針、奈良市こども園カリキュラムの内容に沿い、発達段階に応じた保育内容の検討や指導計画の立案をする。 ・研究主題を定めて、園内研修を計画的にすすめ、保育・教育の質の向上を図る。 ・主体的に遊びが進められる環境構成や援助の在り方を職員間で探り共通理解を図る。	・研究主題を設定し、環境や援助、保育内容の見直し自ら主体的意欲的に取り組む姿や継続的に遊ぶ姿に繋がった。 ・日々の保育内容の振り返りをする中で、職員間で話し合い共通理解を図り、同じ思いで進めていった。 ・園内研修や事例研修をもとに、具体的な話をする中で、課題を見つけ改善していった。	A B A B	B	・子ども理解や発達に応じた指導方法、子どもが主体的に、心を揺り動かす体験の積み重ねに向けての保育内容の工夫などについて話し合い、職員で取り組んだ。 ・園内外の研修に参加し意見交流をしたり実践に活かしたりすることができた。	・保育の質の向上をめざして、子どもの育ちに繋がる保育・教育活動になるよう反省や評価・課題を職員間で振り返り共通理解を図っていく。 ・園だよりやクラスだより、でぃあシート、ホームページ等で園教育について啓発し保護者や地域の方に発信していきたい。
	（３）園行事	①　指導計画の立案 ②　行事内容の精選	・特色あのある園行事の精選と実施。 ・子どもが主体的に取り組む行事になるよう職員間で話し合い、共通理解を図りながら進める。 ・行事の意味や行事を経験することで、子ども達の何につながるのか等を踏まえながら、行事内容の精選を行う。	・年間計画をもとに、行事の前には確認・改善を行いながら進めていった。何のための行事なのか子どもの何につながっていくのか等を踏まえながら行っていく事で、子ども達がいきいきと活動することができていた。	A A	A	・行事については、その都度職員間で話し合い、子どもの発達や育ちに即した内容で行っていった。また、子ども達も主体的に意欲を持って参加することができた。	・行事ごとの精選を図り、どんな時でも子どもが主体的に、より豊かな経験ができるように、その時々の状況に合わせて立案していく。
	（４）人権教育	①　人権教育指導計画の立案 ②　保育内容の精選 ③　指導方法の工夫改善	・子ども一人一人の違いを豊かさと捉え可能性を最大限に伸ばし、人権が尊重されるよう計画する。 ・保育者自身が人権感覚を磨き、日々の保育の中や生活の中で、命の大切さや一人一人大切なそんざいであることを伝え指導していく。	・一人一人を大切にしたクラス運営をおこなったり、日頃の遊びの中で自然と子ども自身が自分の気持ちを素直に表現したり、友達の思いに気付き受け入れるなど、友達の良さを認め合え支え合える取組ができた。　・職員研修において、人権に関わる内容を重点的に取り組むことができた。	A B A	A	・具体的な子どもの姿や課題を出し合ったり、取組の実践についてその都度検証し合ったりした。 ・仲間づくりやいじめについて職員間で話し合い共通理解を図った。人権学習にも積極的に参加した。	・個々に応じた指導内容や方法について、職員間でで話し合ったり、課題を共有したりしていく。 ・思いやりや優しさ、自分を大切にできるよう、職員が見本となり進めていく。
	（５）生徒指導 （園児の豊かな人格形成）	①　組織的な指導 ②　教育相談・幼児理解 ③　家庭との連携 ④　関係諸機関との連携	・話し合いをもち、職員全員の共通理解のもとで、適切な指導を行う。 ・報告、連絡、相談、」確認を綿密に行う。 ・保護者の思いに寄り添い、連携を取っていく。 ・家庭や関係機関、専門機関との連携を図り、情報収集に努める。	・子どもが抱える家庭事情や課題等を把握し、保護者とも連携を取りながら、職員全員が同じ思いで関わるようにした。 ・保護者や関係機関と連携を取りながら、臨機応変に対応することができた。	B A A B	B	・日々の子どもの様子を把握し、丁寧に関わることで信頼関係を築き、気軽に相談できる関係になった。 ・一人一人を大切にし一人一人に合わせた取り組みができた。	・幼児理解と情報収集に努め、全職員で連携しながら、実態把握と適切な指導方法の充実を図っていく。
		⑤　いじめ・児童虐待問題について ・対処方針や指導計画が明確である ・日頃より実態把握・早期発見に努めている ・各学級の状況を園組織として共有できている ・保護者や地域と連携できている ・組織的に迅速に対応する体制が整備されている	・奈良市児童虐待対応マニュアルをもとに職員間で対処方法を共通理解を行った。 ・いじめの原因につながるような事例があった場合は、園全体で共通理解を図り、解決に結びつけていく。 ・地域や小中学校・関係機関と連携を図り、情報収集や情報交換に努めた。	B A B B A	B	・全職員が子どものことを把握し、日々何気ない言動にも耳を傾け、気づき、話し合い共通理解を図りながら取り組んできた。 ・保護者や地域、専門機関とも連携を取りながら進めていき、信頼関係も築けてきた。	・早期対応に向けて、健康観察に気を配ったり、小さなサインも見逃さずに丁寧に関わったり、全職員で取り組んでいく。 ・保護者とも信頼関係を築きながら、専門機関とも連携とり、迅速に対応できるようにする。
	（６）特別支援教育	①　推進体制 ②　個々に応じた 特別支援教育の内容 ③　指導方法の工夫改善 ④　家庭との連携 ⑤　関係機関との連携	・全職員が支援を必要する子どもにについて共通理解を図る。 ・子ども一人一人の実態に即した教育内容や指導方法を工夫する。 ・専門機関、特別支援コーディネーターと連携を図り、専門家の意見を参考にしながら、学級での効果的な支援の方法を探る。	・支援を要する子どもの特徴や支援方法をコーディネーター等の意見を聞きながら情報交換し、職員間で共通理解を図るようにした。 ・就学に向けて、保護者の思いを受け止めながら、子どもの育ちを小学校に引き継いだ。 ・個別の指導計画については、特別支援コーディネーターに指導を受けながら、作成し、必要な保育・教育ができた。	A A B A A	A	・保護者との信頼関係を築き、専門機関や特別支援コーディネーターと連携をとりながら、個々に応じた支援を実践した。 ・支援を要する子どもの保護者と連携を密にし、小学校見学や相談会に一緒にいったり、保護者の思いに寄り添ったりすることで、保護者も安心感を持ってくれた。	・個々の置かれている現状と発達、課題などを把握し、関係諸機関と連携を取りながら対処していく。 ・研修を重ね、保育者の指導の改善に努めていく。 ・保護者との信頼関係の構築に努める。

（令和6年度）

自己評価書

園番号	園名
808	伏見保育園

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価		評価の観点･理由	課題及び改善方策
Ⅱ 園経営に関するもの	（１）組織運営	①　園長のリーダーシップ ②　園経営目標・方針 ③　職員の適正配置と運営への参加意識 ④　園務分掌等の連携 ⑤　会議の運営と位置づけ ⑥　会議の結果 ⑦　職場の人間関係 ⑧　園評価の実施	・園経営や教育ビジョンについての考えを明らかにし周知する。 ・職員会議や研修などを計画的に且つ積極的に参加し、共通理解を図る。子どもの育ちや指導計画、行事など全職員が活発な意見を交わし、共通理解できるような方法を探り実践する。 ・園務分掌では全職員が業務内容を理解し助け合える環境を整える。 ・職員の適正配置と、それぞれがもつ個性を柔軟に受け止め、一人一人が生き生きとやりがいをもって取り組める環境づくりをする。また、奈良市保育教育士育成指標に基づき職務に就く。	・園の教育ビジョンを作成し、園の基本柱を明確にした。 ・目標を達成できるよう、各自が積極的に研修に参加し、職員間で共通理解を図りながら。保育内容の検討や工夫、学年の枠を超えた活動などを行宇ことができた。 ・人事考課等で職位の話をし、それぞれが職位を意識しながら保育・教育を行っていた。 ・職員会議では、事前に案件を知らせ、見通しをもった上で有意義に時間を活用できるようにした。	B A B A A A A A	A	・職員が同じ方向を向いて進んでいけるよう話し合いを持ち、同じ思いで取り組んでいく事ができた。 ・声をかけることで、一人一人が積極的に研修等へ参加し、共通理解を図ることができた。 ・職員一人一人が自分の役割をしっかりと把握し、行っていた。	・全職員が組織の一員として担っていることを意識し行動していけるように周知徹底する。 ・職員の園運営への参画意識の向上をさらに努めていく。
	（２）研究・研修	①　資質の向上をめざした組織的計画的な園内研修の実施 ②　保育改善を目指した保育研究・実践の実施 ③　園外の研修への積極的参加 ④　園外研修内容の報告や伝達 ⑤　研修成果の普及	・園内研修を計画的に行い、資質向上に努める。 ・公開保育や研修会、事例研修会などに参加しやすい態勢を作り、積極的に参加し、情報を共有し職員の資質向上に努める。　・研究主題や事例研修を通して、具体的な子どもの姿を出し合い、主体的に遊ぶための環境や援助について探り共通理解を図る。	・研究主題に基づき、日々実践事例をあげながら話し合い、日々の保育に活かしていけるようにした。 ・子ども理解や環境構成、援助について研修を深めることで、明日につながる保育の実施など、職員の資質向上につながっていった。 ・園内研修会や実践事例、でぃあシートを書くことで、具体的な子どもの姿を出し合い、そこから主体的に遊ぶための環境や援助について探り共通理解を図るようにした。	A A A B B	A	・研究主題に基づき、日々話し合い共通理解を図っていくことで、同じ思いで子どもにかかわり、援助したり環境設定をしたりすることができた。 ・具体的に事例をあげながら話し合っていくことで、より明確に取り組んでいく事ができた。また、でぃあシートを学年で１枚毎月書き掲示することで、保育の振り返りや共通理解にも繋がった。	・他園での保育内容や実践などの研修に参加し、職員の資質向上につなげていく。 職員全員が参加しやすいように研修体制を整えていく。 ・園内研修を充実させて、主体的に遊ぶための環境や援助について話しやすい雰囲気をつくり、共通理解を図っていく。
	（３）安全管理	①　安全計画の立案 ②　防災計画の立案 ③　危機管理体制の整備 ④　安全指導の工夫改善 ⑤　家庭との連携 ⑥　関係機関との連携	・安全管理マニュアルを見直し、周知徹底する。 ・避難訓練の計画し、様々な実状況を想定しながら施をする。 ・危機管理マニュアルを徹底する。 ・大規模災害・非常時における家庭との連絡を確認するとともに、職員の役割と動き方についての確認をする。 ・交通安全指導の徹底をする。	・安全管理マニュアルについては、年度当初に全職員で確認し合い、共通理解を図った。 ・月一回の避難訓練を実施する中で、その都度、反省点等を出し合い、次へと繋げていった。 ・消防署と連携をとり、避難訓練を実施した。 ・大規模災害が起きた時のシュミレーションをしたり引き渡し時について、話し合い周知徹底した。	A A A B B A	A	・安全管理マニュアルを職員で確認し合うことで共通理解を図り実践に活かしていく事ができた。 ・話し合いを持つことで、いろいろな場面を想定しながら避難訓練を行ったり、シュミレーションをすることができた。	・危機管理意識を今以上に職員に周知し、どんな場面でも的確に且つ迅速に対応できるように共通理解を図っていく。
	（４）保健管理	①　保健計画の立案 ②　心のケアや健康相談の体制の整備 ③　健康観察、健康管理能力の育成 ④　関係機関との連携 ⑤　昼食の衛生管理	・日々の健康観察に努め、家庭と職員間の連携を密に取り合う。 ・あらゆる感染症について正しい知識と情報を得て、子ども、保護者、職員の安全安心を守る。 ・園医や看護師、関係機関との連携がスムーズにとれるようにする。 ・食物アレルギー児への対応について、マニュアルをもとに全職員が周知徹底して対応する。	・毎日の感染状況や疾病状況をボード等で保護者に知らせ、周知したもらった。 ・毎月の園だよりや学年だより等で基本暦生活習慣の自立をしら汗、促した。 ・看護師、園医と連携をとりながら、保険業務・健診等をスムーズに行うことができた。 ・アレルギー会議を毎月おこない、周知徹底し、安全に提供することができた。	A B A B A	A	・園だよりや学年だよりに保健に関することを掲載したり、その都度口答で伝えたりすることで、保護者に意識付けすることができた。 ・保護者、担任、調理員、管理職と必ず徹底してアレルギー会議を行った。	・子どもや職員の健康管理や安全管理に努める。 ・一人一人に沿った関わりができるように職員間で連携をとり取り組んでいく。
	（５）地域との連携	①　園情報の発信 ②　園(保育)公開 ③　小学校との接続・連携 ④　こ幼保との連携 ⑤　保護者会の活性化 ⑥　地域との行事、会議等	・園の取組や子どもの様子を園だよりや学年だより、ホームページ、ドキュメントを通じて発信し、園の情報提供を行う。 ・保護者、地域、小学校、中学校をの連携を図り、情報交流・情報共有する。 ・感染対策を講じながら、地域との連携を図っていく。	・園だよりや学年だより、ホームページ、でぃあシート、ドキュメントなどで園や子どもの様子を発信した。 ・保護者会活動がスムーズに行えるよう、助言したり仲立ちとなったりした。 ・地域や関係機関と連携をとりながら、情報交流や情報交換ができた。	A B A B B B	B	・ホームページやでぃあシート、ドキュメントの掲示を通して園の様子や子どもの様子を発信することができた。 ・保護者会活動の仲立ちは行ったが、行事等の見直しなど今後の課題はある。	・園の様子や取り組み等をホームページやでぃあシート、ドキュメント、園だより等を通して、わかりやすく丁寧に発信していく。 ・地域との関わりを大切にしながら、地域との連携を図っていく。
	（６）施設・設備	①　保育環境の整備 ②　施設設備の有効利用 ③　施設設備の管理	・遊びの環境の見直しをする。 ・園内の掃除、消毒、換気を徹底する。 ・毎月遊具点検を行う。 ・危険個所の把握と迅速な対応をする。	・遊具の点検を月一度職員が順番に行った。 ・施設の安全点検を行い、必要に応じて修理や修繕を依頼し、改善していただいた。 ・定期的に園内外の環境整備・整理整頓を行った	A B A	B	・子どもの安全面に留意し、点検や改善を行い、保育環境を整えた。 ・施設面では、修理修繕が必要なときは迅速に対応し改善してもらった	・安全安心な園生活が送れるように、点検を怠らず、職員間で周知徹底していく。
	（７）情報管理	①　公文書の収受・保管 ②　公文書の作成 ③　個人情報の管理・保護 ④　情報の収集 ⑤　電子媒体の管理	・個人情報の取扱いについて全職員で共通理解をし、写真屋データの管理や保護を徹底する。 ・情報セキュリティーの研修に参加し、職員の意識のに向上に繋げる。	・個人情報の取扱いについては、マニュアルに基づき、管理保護の徹底を行った。 ・情報セキュリティー媒体使用簿、デジカメ管理簿などの記入を徹底した。	A A A B A	A	・個人情報に関わるデータの保管や管理を徹底し、職員一人一人が意識して管理することができた。 ・	・職員全員が危機感を持ち、個人情報の取扱いについての意識をさらに高めていく。 ・データ管理や保管を、徹底する。